



日日進歩

会報文中の〔番号〕は、会員番号を示します。
Hong Kong Public Transport Tourism Association ©

「繼續寵愛張國榮」

[022] 島津 美穂

今年は2013年。香港での重症急性呼吸器症候群（SARS）から10年です。その2003年、この世を去った巨星といえばレスリー・チャン。没後10年にあたり、島津さんに寄稿いただきました。写真はもちろん、島津さん撮影のものです。



2003年4月1日。突然、レスリーが逝ってしまった。あれから10年が過ぎた。長かったような、あっという間だったような10年目の春、香港ではレスリーへの追悼の各イベントが開催された。諸般の都合で香港には行けなかったが、どのイベントも大盛況だったと聞いている。

奧運城で開催された《音樂傾城・張國榮》ではレスリー仕様のラッピングトラムや停留所の展示があったそうだ。見てみたかった!!

3/31の紅館での《繼續寵愛10年 MISS YOU MUCH LESLIE》は経理人だったフローレンス・チャンの呼び掛けによりアーティスト達がレスリーのヒット曲を歌い、映画監督や俳優、作曲家や作詞家等多くのレスリーに係わった人々がメッセージを寄せた。これがなんと！生中継で日本各地の映画館で鑑賞できたのだ!! 時差の為、日曜日の2時半から0時半という、厳しい時間帯ではあったが、レスリーを偲ぶ一時を共有出来た事を尽力した方々や映画館のスタッフに感謝したい。

時代廣場で開催された《繼續寵愛十年記念展》では世界中の迷（ファン）がレスリーを想いながら折った折鶴が寄せられた。その

の総数 1956912羽。迷にとってレスリーの誕生日である特別な数字である。これはギネス認定された。前出のイベントでもシンボリックに折鶴が使われた。それは日本の迷の繼續する想いが切っ掛けとなっている。

哥哥的一天というレスリーのファンイベントを毎月、15年続けている会がある。悲しみのうちひしがれる中、何かレスリーに対する想いを伝えたいと、命日と誕生日の年に2回、千羽鶴を届け続けた。この4月も20個目となる折鶴を届けてきた。フローレンスさんは、この日本の迷の活動を毎回温かく受け入れて下さり、明報周刊への掲載等メディアを通じて広く伝えてくれている（私も何度も集合写真で載ってしまった...）。日本の迷のレスリーへの繼續する想いが世界中に広まり、10年目の香港を彩った。現在、21個目の千羽鶴企画が進行している。



[033] 渡部 真澄

維多利亞港に 浮かぶもの



今回の香港滞在は5/3~6 ちょうど5/2に尖沙咀 HARBOUR CITY オーシャンターミナルに登場した「Rubber Duck Project (橡皮鴨游世界)」を見に行ってきました。

「Rubber Duck Project」とは、オランダ人アーティストのフロレンティン・ホフマン氏による巨大アヒル（ゴム製）が世界中を旅するというもの。これまでベルギー・ニュージーランドなどを回り、日本には2009年~1年に大阪各地、2012年に広島尾道、再度大阪に。

ラバーダックについて調べてみたら、どうやら1992年に香港からシアトルに向かう貨物船が悪天候で、積荷の大量のラバーダック（玩具）が太平洋に落下し漂流。その後インドネシアやオーストラリア、アラスカ、日本、と太平洋を一周し、各地に漂着しているようです。もしかして、ホフマン氏はそれからヒントを得たのでは、と私個人的に推測しております。

5/3 夕食を終え尖沙咀埠頭行きのバスに乗り向かいます。バスを降りて見えるかなあ...と思つて近づくと、沢山の人人人！そしてラバーダック（黄色巨鴨）のお尻が見えました！こんなに大きいとは！そして思ってた以上に...かわいい！！可愛い過ぎる！！

夢中で写真を撮ってしまいました。海に浮かぶラバーダックの前の広場にも、沢山のダックが。老若男女みんなが嬉しそうに写真を撮っていて、とても賑やかでした。結局滞在中、夜2回・昼2回と、4回もラバーダックに会いに行ってしまいました。スターフェリーに乗って後姿を撮影したり、ハーバーシティの駐車場に潜入し上から撮影したりと、ちょっとだけ黄色巨鴨迷になってしまいました。

帰国後もFacebookなどで黄色巨鴨の毎日を見ておりましたら、14日夕方から空気が抜けてしばみ（鳥インフルエンザの噂も!）、その後青衣に運ばれて治療され、21日夜復活。でも22日早朝は3年ぶりの黒雨警報発令...黄色巨鴨は香港の激しい豪雨の試練を受けることに...かわいそうな巨鴨...（涙）。しかし雨ニモマケズ風ニモマケズ、黄色巨鴨は6/9まで、香港維多利亞港に滞在しておりました。

